

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
700101	人間環境学共同演習	1～2	2×2	高橋蔵・谷・川口 他

期間	曜日	時限	備考：2カ年連続履修
通年	水	1	

授業のキーワード：

人間環境学の構築、プレゼンテーション、全体的展望

授業のテーマ：

19世紀後半より学問間の分断が進み、全体的展望が失われるようになった。本研究科では、人間と環境との相関という全体的現象を参照点とすることで、自らの専門領域の位置づけを図るとともに、逆に個別的研究を深めることからこの全体的現象を照射するという、循環的な学の構築を目指している。

3名の担当者以外にも、本研究科に属する研究指導教員は積極的にこの演習に参加し、議論に加わっていくことにする。

【2カ年連続して履修し計4単位を修得すること】

授業の概要：

毎回、あらかじめ決められた発表者の専門とするテーマについて発表を行う。そのプレゼンテーションは、専門家相手ではなく、他の研究指導分野の院生にも理解できるように配慮することが求められる。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

修士課程1年次生は、卒業論文を中心としたそれまでの各人の学習成果について、それをいかにして大学院における研究につなげていくのかを発表し、他の出席者との質疑応答によってその適切さを再確認する。

修士課程2年次生の場合、修士論文のための研究の進展具合が中心となるが、その問題意識、研究方法の適切さ、予想される成果などについて、他の出席者の質問に答え、あるいはコメントを受けての検討を行う。

授業方法：

各受講生の研究テーマを中心とした発表と、それにもとづく質疑応答を行う演習形式。

達成目標：

この演習では、授業テーマに掲げた学問的態度を養い、人間と環境との相関という視点のもとに、全体的知の融合をはかり、人間環境学の構築をめざす。

評価方法：

演習への貢献と出席状況を加味して評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

なし

参考文献：

各発表者が指定。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730401	財務会計演習	1～2	2×2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：2か年連続履修
通年	金	1	

授業のキーワード：

財務会計 会計制度 リース会計 IFRS

授業のテーマ：

日本企業の事業の国際化および証券市場のグローバル化にともない、企業のディスクロージャーはグローバルスタンダードに拠ることを求められてきている。この流れは、わが国の会計制度に歴史的な転換を迫るものとなり、会計制度の大きな変革が進められてきた。最近では、会社法の制定や国際的な会計基準への統一化（コンバージェンス）など、会計をとりまく環境の変化によって、わが国の会計制度は大きく変貌してきている。

本演習はこうした会計制度の変革についてその内容を深く考察しようとするものであり、さらには各国の会計制度を概観することによって会計制度の発展過程を考察しようとするものである。

授業の概要：

前期にはこれまでの会計制度の変革を、後期には会計史についてとりあげる。

また、修士論文指導もあわせて行う。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

前期

1. 日本の会計制度の動向
2. 企業会計原則と概念フレームワーク
3. 連結財務諸表制度
4. 税効果会計
5. 退職給付会計
6. 時価主義
7. 減損会計
8. キャッシュフロー計算書
9. 企業結合会計
10. 会社法会計
11. 金融商品取引法会計
12. 資産除去債務に関する会計
13. 会計制度の国際的動向
14. 会計制度の新たな展開
15. 総括・修士論文中間報告

後期

1. フランスの簿記事情と会計規程の成立
2. ドイツ式簿記とイタリア式簿記
3. ネーデルランド会計史の現代的意義
4. 15-19世紀イギリスの簿記事情
5. アメリカの簿記理論の体系化
6. 和式帳合と複式簿記の輸入
7. 株式会社会計の起源
8. 株式会社制度確立期の財務報告
9. 株式会社と管理会計の生成
10. 株式会社と会計専門職業
11. 政府・自治体と公会計
12. 会計理論の生成と展開
13. 現代会計へのプロローグ
14. 修士論文指導
15. 修士論文研究報告

授業方法：

各回のテーマについて、受講生の発表の後、補足説明を行い、実態や今後の課題についてのディスカッションを行う。

達成目標：

わが国の会計制度の変遷過程を理解し、様々な会計手続きについての論点を把握することによって、わが国の会計制度の特徴を捉えることができるようになること。

また、各国の会計制度の発展過程を理解できること。

評価方法：

各回の発表：100%

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

下記テキストを予定しているが、受講生の興味・関心および修得知識に対応して変更することも可能であるため、開講時に受講生と相談の上、決定する。

山地範明 『基本的テキストシリーズ会計制度 新訂版』 同文館出版 2011年 ¥2,160

中野常男・清水泰洋編著 『近代会計史入門』 同文館出版 2014年 ¥3,400

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730601	環境経済学演習	1～2	2×2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	1	

授業のキーワード：

富、貨幣、金融、経済成長

授業のテーマ：

経済的富である貨幣や金融資産と、物理学的視点から見た富との根本的な違いについて理解する。また、経済的富を増加させることが必ずしも物理学的視点から見た富の増加には繋がらず、様々な問題を引き起こす可能性について考える。

授業の概要：

近現代の経済学に様々な視点から批判を加えた経済学者や自然科学者の著作の原書を手がかりにして議論を行っていく。原書については I. Fisher や F. Soddy の著作などを予定。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

（1）イントロダクション

（2）～（14）発表、原書の購読および議論

（15）前期のまとめと復習

（後期）

（16）イントロダクション、前期の復習

（17）～（29）発表、原書の購読および議論

（30）後期のまとめと復習

授業方法：

発表、原書購読、議論

達成目標：

経済学を当初の学説の次元から理解できるようになる。そのことを自身の論文作成に繋げることができる。

評価方法：

各回の発表

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

適宜指定する。

参考文献：

適宜指定する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740401	環境経済学特論	1・2	4	山根卓二
期間	曜日	時限	備考：	
通年	火	2		

授業のキーワード：

経済学史（経済思想の歴史） 所得水準と幸福 経済体制と環境 科学の統合 人間と環境とのつながり

授業のテーマ：

出来上がった経済学の体系ではなく、その体系が出来上がっていくまでの過程に注目することを通じて、経済学をより深い次元から理解する。

授業の概要：

各時代の経済学者の経済思想を年代順に紹介する。そして、それらがどんな現代的意義を有しているかについて考えてみる。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

- (1) アダム・スミス①
- (2) アダム・スミス②
- (3) アダム・スミス③
- (4) リカードとマルサス
- (5) ジョン・スチュアート・ミル①
- (6) ジョン・スチュアート・ミル②
- (7) マルクス①
- (8) マルクス②
- (9) マルクス③
- (10) メンガー
- (11) ワルラス
- (12) マーシャル
- (13) ピグー
- (14) 現代の新古典派経済学
- (15) まとめ

（後期）

- (1) ケインズ①
- (2) ケインズ②
- (3) ケインズ③
- (4) ヴェブレン①
- (5) ヴェブレン②
- (6) 都留重人①
- (7) 都留重人②
- (8) 都留重人③
- (9) 現代の新古典派経済学（再論）
- (10) カップ①
- (11) カップ②
- (12) カップ③
- (13) カップ④
- (14) カップ⑤
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

達成目標：

経済学史の重要性を理解する。科学の統合の重要性について理解する。現代経済のしくみとそれが引き起こす環境問題について理解する。

評価方法：

レポート100%

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

K.W.カップ『私的企業と社会的費用』岩波書店。

都留重人『都留重人著作集 全13巻』講談社。

尾高煌之助・西沢保編『回想の都留重人—資本主義、社会主義、そして環境』勁草書房。

その他適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760701	財務会計特論	1・2	4	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：
財務会計 IFRS コンバージェンス

授業のテーマ：
前期は、財務会計の基本を深く理解するために、財務諸表の主要な項目について、その会計理論・会計処理を学ぶ。また、会計制度の変革とともに新設・改訂された会計基準についても学び、最新の財務会計の新展開について理解する。後期は、近年、日本においてIASBによって設定された国際財務報告基準(IFRS)に対応すべく、大規模かつ頻繁に会計基準の制定や改訂が推し進められているため、このIFRSへの対応をとりあげ考察していく。

授業の概要：
会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理について仕訳をまじえて詳細に解説する。また、その後、国際会計基準について総合的、体系的に論述し、その変遷と日本のIFRSへの対応をとりあげ論及する。なお、本科目は企業会計の基礎知識、とりわけ会計制度についての基本的知識および簿記処理手続についての知識が必要であり、この科目の受講に際しては、日商簿記検定2級(商業簿記)以上の知識を有していることを条件とする。
*準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

前期	後期
1. 会計の意義と領域	1. 国際会計基準の概要、意義と特徴
2. 会計の法的制度	2. 従業員給付会計
3. 会計の基本構造	3. 国際財務報告基準(IFRS)
4. 利益計算の基本原則	4. 会計基準コンバージェンスの国際的動向
5. 現金・預金と金銭債権の会計	5. 日本における会計基準コンバージェンス
6. 有価証券の会計	6. 有形固定資産会計
7. 棚卸資産の会計	7. 投資不動産会計
8. 有形固定資産の会計	8. 売却目的固定資産会計
9. 無形固定資産と投資その他の資産の会計	9. 無形資産会計
10. 繰延資産の会計	10. 棚卸資産会計
11. 負債の会計	11. 金融商品会計
12. 純資産の会計	12. 引当金会計
13. 収益と費用の会計	13. 偶発債権・債務会計
14. 財務諸表の作成	14. ストック・オプション等会計
15. キャッシュ・フロー計算書	15. 損益会計論(収益会計)

授業方法：
テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、その内容について必要に応じて受講生の意見を求め、討議を行う。

達成目標：
前期：貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理が理解でき、会計手続きの最終段階である財務諸表を正式に作成できること。
後期：国際財務報告基準(IFRS)を理解し、日本におけるコンバージェンスの際の論点を把握し、IFRSがわが国会計実務へ与える影響を考察できるようになること。

評価方法：
レポート点から欠席回数分を減点する。したがって欠席がなければレポート点100%。
なお、受講態度(講義への積極的取り組み・遅刻など)についても評価対象とする。
*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：
上野清貴 『財務会計の基礎 第4版』 中央経済社 2015年、¥3,024
平松一夫 『IFRS 国際会計基準の基礎 第4版』 中央経済社 2015年、¥3,024

参考文献：
各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750301	環境リスク管理演習及び実習	1～2	2×2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：2時限連続、2ヵ年連続履修
通年	木	1・2	

授業のキーワード：

環境リスク、生態系サービス、災害、景観生態学、GIS

授業のテーマ：

生態系サービスの維持と向上の視点に基づく環境リスク管理について深く議論し、修士論文等の執筆に向けた実践的指導を行う。

授業の概要：

各自のテーマ、関心によりテキストを選択し読み進める。また適宜関連文献のレビュー発表や調査研究についての指導を行う。なお本演習及び実習の受講に際しては、1年次での環境リスク管理基礎実習の受講を必須とする。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

1. 前期に向けた導入、テキストの選択
- 1.～14. テキストの購読、レビュー発表、調査指導、データ分析指導
15. まとめ

（後期）

1. 前期内容の確認と後期に向けた導入
- 2.～12. テキストの購読、レビュー発表、調査指導、データ分析指導
- 13.～15. 研究計画書執筆指導

授業方法：

質疑応答による演習形式を基本とし、調査研究指導においては適宜実習形式をとる。

達成目標：

1年次においては環境リスク管理およびその周辺についての知識の涵養に努め、プレゼンテーションを含む研究のための様々な技能やノウハウを身につける。年次の終わりには自らの研究テーマを定め、研究計画書を書き上げる。

評価方法：

発表内容（50%）、授業への貢献度（50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

特に指定しない。各自が必要に応じて選択し、購入する。

参考文献：

演習時に適宜指定する。

実験・実習・教材費：

3,000円（コピー代、消耗品代）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750401	環境リスク管理基礎実習	1	2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
後期	火	1・2	

授業のキーワード：

環境リスク、リモートセンシング、GIS、リスクコミュニケーション

授業のテーマ：

人間活動と自然環境の間で双方向に及ぼされる環境リスク問題について、その概念と分析・評価手法の基礎的事項を実習を通じ理解する。実習では衛星画像などのリモートセンシングデータや地理情報システム（GIS）を用いた地域分析の手法を修得する。さらには行政・企業・民間にわたるリスクコミュニケーションの促進に向けた、情報整備・伝達手法について理解する。

授業の概要：

衛星画像解析とGISの活用に焦点をあて、実習を進めていく。植生情報をおもに扱うが、必要があれば各々の研究テーマ等へのこれら手法の利活用についても考え、授業に取り入れていく。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前半）

1. 環境リスクの概念
2. 衛星画像解析の基本
3. 衛星画像による植生解析
4. 衛星画像による地形解析、裸地・崩壊地抽出
5. 衛星画像による災害情報の抽出

（後半）

6. GISの操作の基本（ArcGIS）
7. GISによる景観情報の分析
8. GISのリスク管理への適用
9. GISの情報公開・アカウントビリティへの適用

授業方法：

ソフトウェアの操作を主とする実習形式をとり、適宜課題を与える。また事例分析のための文献購読を交える。

達成目標：

環境リスク問題についての定量的アプローチの基本概念を理解し、専門的課題に対処できる衛星画像解析技術やGIS活用技術の基本を身につける。

評価方法：

レポート（70%）と授業への取り組み（30%）で評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

今木洋大、『Quantum GIS 入門』、古今書院、3,240円

長澤良太・原慶太郎・金子正美、『自然環境解析のためのリモートセンシング・GISハンドブック』、古今書院、4,860円

モニカ G.ターナー・ロバート V.オニール・ロバート H. ガードナー、『景観生態学—生態学からの新しい景観理論とその応用』、文一総合出版、4,104円

加藤正人、『森林リモートセンシング 第4版—基礎から応用まで』、日本林業調査会、3,240円

実験・実習・教材費：

30,000円（衛星画像データ購入費、消耗品費として使用）。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760101	環境保全特論	1・2	4	藤井芳一

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	1	

授業のキーワード：

環境保全、生態系、農業、データ、事例、リスク

授業のテーマ：

人間と自然環境との関わり方を考える際に重要な概念である生態系に対する理解を中心として、これからの環境保全の在り方について考察する。その中で、各種データの取り扱い方や、議論のとりまとめ方についても修得する。

授業の概要：*この科目学習時間について（講義 4 単位の場合）【授業】60 時間【予習・復】120 時間【合計】180 時間

前期は「環境」及び「環境保全」について、その考え方や実際の施策、その評価について解説した後、「生態系」及びその人間との関わりについて扱う。後期は、前期で得た知識を基にしつつ、関連事項の知識の整理を行ない、実際の環境問題や環境保全事業の事例について、その解決策、事業の妥当性等について検討を行なう。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

1. ガイダンス
2. ～3. 環境問題とは何か
4. ～5. 環境保全の考え方
6. ～7. 施策や事業の効果に対する評価方法
8. ～9. 生態系とは
10. ～11. エコシステムマネジメント
12. ～14. 人間と（自然）環境との関わりについて—農業を中心に—
15. まとめ

（後期）

1. ガイダンス
2. ～4. 河川の環境保全—事例と考察—
5. ～7. 土壌の環境保全—事例と考察—
8. ～10. 大気環境保全—事例と考察—
11. ～12. 身近な環境問題について考える
13. ～14. 意思決定ツールとしての生態リスク評価
15. まとめ

授業方法：

講義形式を軸とするが、受講生による発表や、ディスカッションを適宜行う。

達成目標：

環境を保全するということについて、一側面における情報のみを鵜呑みにすることなく、多角的に検討することができ、自ら適切な方法について提案できる力を身につける。

評価方法：

レポート（50%）、発表を含めた授業への取り組み（50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

特に指定しない。必要に応じて資料を適宜配布する。

参考文献：

適宜提示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760301	環境リスク管理特論	1・2	4	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード：

環境リスク、生態系サービス、災害、景観生態学、GIS

授業のテーマ：

生態系サービスを最大限活用し、災害リスクや生活上のリスクを回避、あるいは軽減するための環境リスク管理の理論と方策について、地域をはじめとする空間を「景観要素の不均一な場」としてとらえ、そのパターンとプロセスが生物ならびに生態系に与える影響を検討し適切な土地利用のあり方を提言する景観生態学の立場に基づき論ずる。

授業の概要：

前期は景観生態学の理論と分析手法について解説し、その環境保全や地域計画に果たすべき役割について考える。後期は山林から農村、都市部に至るリスク管理に向けた応用について、事例を交え解説する。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

(前期)

1. 序論
2. 景観生態学の概念と方法
3. 景観とスケール
4. 景観のパターン
5. 景観パターンの成因
6. 景観パターンの成因
7. 景観パターンの定量化
8. 景観の攪乱動態
9. 生物と景観パターン
10. 景観における生態学的プロセス
11. データの取得と分析（衛星画像）
12. "
13. " (空中写真)
14. " (地理情報システム)
15. "

(後期)

1. 農業生態系におけるリスク管理
2. "
3. "
4. 里山の生態系におけるリスク管理
5. "
6. "
7. 河川生態系におけるリスク管理
8. "
9. "
10. 都市生態系におけるリスク管理
11. "
12. "
13. 自然再生のデザインと環境リスク管理
14. "
15. "

授業方法：

通常の講義形式をとる。図表やスライド等を多用し、視覚的に理解させることを心がける。

達成目標：

景観生態学の理論に基づく環境リスク管理手法について理解し、将来における国土・土地利用管理のあり方を考え提言できる力を身につける。

評価方法：

期末試験（60％）と授業への取り組み（40％）で評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

森本幸裕編、『景観の生態史観—攪乱が再生する豊かな大地』、京都通信社、2,160円

参考文献：

森本幸裕・小林達明編、『最新 環境緑化工学』、朝倉書店、4,212円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770101	臨床心理査定演習	1	4	坪井・三後 鈴木

期間	曜日	時限	備考：
前期/後期	月/金	4/5	

授業のキーワード：

心理査定 投映法 知能検査 心理検査

授業のテーマ：

臨床心理士として必要不可欠な臨床心理査定の実際を学びます。特に、病院や精神科クリニック等の病院心理臨床現場において通用する心理査定の技法とその実施方法を習得します。

授業の概要：

臨床場面で実際に臨床心理査定が実施できるよう、各種心理検査の教育・訓練を行います。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

<前期>

- 1 オリエンテーション
- 2～3 投映法について（ロールシャッハ法テスト体験を含む）
- 4～14 ロールシャッハ法を中心とした投映法の実際（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

<後期>

- 1～5 知能検査（実施方法・分析・解釈等）
- 6～9 発達検査（実施方法・分析・解釈等）
- 10～14 その他の心理検査（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

授業方法：

講義および演習・実習（テスト体験・テスト体験含む）形式で行います。臨床心理査定を本当に自分のものとして習得できるか否かは、各自の主体性にかかっていますので、積極的な学習意欲に期待します。

達成目標：

臨床心理士の基本的姿勢と倫理について学ぶとともに、総合的、臨床的な見立てと対処方法など、臨床現場で役立つ具体的な臨床心理査定の習得を目指します。

評価方法：

授業への取り組み（50%）およびテスト体験・テスト体験レポートを含む各種レポート（50%）によって総合的に評価します。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

ロールシャッハ法テキストは大学院でまとめて購入します。詳細は授業の中で説明します。

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770301	臨床心理基礎実習	1	2	伊藤・三後 鈴木・坂本

期間	曜日	時限	備考
通年	金	3・4	

授業のキーワード：

臨床心理士 心理療法 心理面接 遊戯療法 箱庭療法

授業のテーマ：

心理面接を行うために必要な基本的態度や倫理について学び、面接の技法を体験的に理解します。また、遊戯療法や箱庭療法の観察・実習を通して各技法の基本を理解することをねらいとします。

授業の概要：

前期は臨床心理士としての基本について学び、ロールプレイ等によりセラピストとしての基本的態度の涵養をはかります。後期は事例検討を中心として、アセスメント、事例理解、クライアントへの援助方法等を学び、臨床の基礎力を主体的に習得します。複数の教員との討論を通して多様な観点から深く事例を理解することはセラピストとして必須となります。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

<前期>

- ① オリエンテーション
- ② 心理臨床に関する倫理について
- ③ 心理臨床に関する関連法規について
- ④ 心理面接を行う基本的態度・初回面接・事例研究について
- ⑤ ロールプレイの基礎（ビデオ視聴・紙上応答訓練）
- ⑥～⑨ ロールプレイ（実習）

*カンファレンス（M2と合同）4～7月第Ⅱ金曜日 計4回

*定例授業時間外に実施（授業2回分に相当）

- ・見学実習（精神科病院・クリニック・私設心理相談室・児童相談所・適応センター等）
- ・遊戯療法観察（人間環境大学附属臨床心理相談室）

<後期>

- ① 遊戯療法観察事例の検討
 - ② 「来談者中心療法」ビデオ視聴と検討
 - ③ 事例の見立てについて
 - ④～⑨ 事例検討（院生担当事例について）
- *カンファレンス（M2と合同）9～3月第Ⅱ金曜日 計5回（1, 2月除く）
- *定例授業時間外に実施（授業1回分に相当）
- ・見学実習（情緒障害児短期治療施設・青少年相談センター等）

授業方法：

基本的事項については講義を行います。演習・実習が基本となります。

達成目標：

臨床心理士としての基本を身につけることを目標とします。

評価方法：

授業への取り組み（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。
*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

なし

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

60,000円（実習教育・教材費および消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770401	臨床心理実習	2	2	渡辺・高橋蔵・田中

期間	曜日	時限	備考：3 時限連続
通年	金	3・4	

授業のキーワード：

臨床心理実践、臨床心理学的援助、臨床心理学的査定、心理療法、カウンセリング

授業のテーマ：

臨床心理士として現場で働くために必要な、一人一人のクライアント（患者）に即した、臨床心理学的査定（見立て、診断、方針）と臨床心理学的援助方法（カウンセリング・心理療法）とを、実際のケースを通して学び、習得する。

授業の概要：

院生は、本学附属臨床心理相談室及び学外実習施設においてケースを担当すると共に、毎回レポートを作成し、同時に、授業において担当ケースを報告することで、教員による指導、教育、スーパービジョンを受ける。授業での複数の教員による討議により、院生が心理臨床の多様なオリエンテーションを実践的に学びながら事例を深く理解することとなる。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

大学院教員及び本学附属臨床心理相談室スタッフによる指導、教育、スーパービジョンに基づき、本学附属臨床心理相談室において、実際の事例を学生に担当、実習させ、事例の心理面接・心理査定・カウンセリング（心理療法）について、臨床的な指導、教育を行なう。また、精神病院・精神科クリニック・情緒障害児短期治療施設・小中学校など学外実習施設において、本学学外講師の指導、教育、スーパービジョンの下に、事例を担当、実習させて、その臨床的な指導、教育を行なう。

授業方法：

院生は、本学附属臨床心理相談室、及び精神科病院、クリニック、児童施設等でさまざまなクライアント（患者）を実際に担当し、臨床心理学的面接、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助（カウンセリング・心理療法）を実習すると共に、学内授業では毎回院生に担当しているクライアント（患者）についての事例報告をさせ、グループスーパービジョンによる臨床的、実践的な指導、教育を行なう。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

実習実践態度（50%）、授業への取り組み（30%）、レポート評価（20%）。

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

渡辺雄三『臨床心理士の仕事の方法』（金剛出版）（3,200円）

参考文献：

実験・実習・教材費：

60,000円（病院実習費・謝礼・教材費・消耗品等）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770201	心理学特別演習	1～2	2×2	渡辺・伊藤・高橋蔵・三後・田中・鈴木

期間	曜日	時限	備考
通年	水	3	

授業のキーワード：

臨床心理学、研究方法、修士論文

授業のテーマ：

大学院における講義、及び臨床心理学実習、演習から得た知見を、心理学の先行研究を踏まえながら、文献的、理論的、臨床的な、臨床心理学的研究、考察の訓練を行ない、最終的には修士論文としてまとめることを目的とする。

授業の概要：

院生が自身の研究内容を発表、報告し、担当教員全員による指導を受ける。担当教員全員が研究内容の討論に参加することにより、院生が、多様な理論あるいは心理臨床の種々のオリエンテーションによる研究の着想を自身の研究に有機的に結びつけることが可能となる。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

1年次前期末には院生の研究テーマを考慮しながら、教員合議の上、研究科委員会に諮って研究指導教員を決定する。院生は、研究指導教員の指導を受けて研究テーマを定め、深化させ、修士論文へと集約させる。本演習においては、研究指導教員以外の教員や他院生との共同討議を積極的に進め、自己の研究の広がりや深まりを図り、院生が研究の多様な可能性に対して開眼し成長するように指導する。

授業方法：

院生は、大学院におけるさまざまな講義、及び「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理査定演習」、そしてケース担当による臨床心理実践などから得た知見を、心理学、臨床心理学の多様な理論と照合させながら、担当教員の指導、教育を受けると共に、他の教員が全員出席する集団討議の場で研究を発表し、自身の研究テーマを探り、修士論文としてまとめていく。

達成目標：

臨床心理学徒としての研究論文の作成。

評価方法：

研究発表とその内容（50%）、授業への取り組み（50%）。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780101	臨床心理学特論	1	4	渡辺雄三

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード：

臨床心理学、臨床心理士、心理療法、クライアント

授業のテーマ：

「いかにクライアントを理解し、手助けするか」を基本テーマとして、臨床心理士として必要不可欠な臨床心理学の理論と方法を学ぶ。精神病院や精神科クリニック等の病院心理臨床を始めとして、さまざまな臨床現場において通用する、心理面接・心理療法・心理査定の理論と技法とを学習する。また臨床心理士の基本的な臨床姿勢と倫理についても学ぶ。

授業の概要：

「臨床心理学の方法」すなわち、臨床心理士はいかにクライアントを理解し、クライアントの手助けをするかについて、1) 臨床心理学という学問の方法、2) 臨床心理学による見立ての方法、3) 臨床心理学による手助けの方法（心理療法）、の構成によって授業を進める。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

担当教員の執筆による教科書『私説・臨床心理学の方法』に沿って、また適宜担当教員の著書や研究論文を紹介しながら、臨床上的、実践的な臨床心理学の理論と技法を学ぶ。

授業は次の計画によって進められる。

前期		後期	
1回～2回	第1章「臨床心理学の原則」	1回～3回	第8章「手助けの方針を決め、クライアントに伝え、合意する」
3回～5回	第2章「臨床心理学がクライアントを理解する視点と方法」	4回～5回	第9章「クライアントにかかわる」
6回～7回	第3章「臨床心理学の見方、考え方」	6回～7回	第10章「クライアントにかかわりながら考え続ける」
8回～9回	第4章「クライアントに会う」	8回～10回	第11章「クライアントの自己理解と自己修復を助ける」
10回～11回	第5章「クライアントを理解する」	11回～13回	第12章「心理療法における「こころ・からだ」の作業」
12回～13回	第6章「クライアントを査定する」	14回～15回	第13章「クライアントと共に歩き続ける」
14回～15回	第7章「病態水準論」		

授業方法：

上記の授業計画に沿って、講義し、臨床心理士として必要な基本的な臨床心理学の理論、技法、臨床姿勢、倫理等について学び、自由に相互討論する。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

授業への取り組み（70%）とレポートによる評価（30%）。

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

渡辺雄三『私説・臨床心理学の方法』（金剛出版）（5,800円）

渡辺雄三『臨床心理士の仕事の方法』（金剛出版）（3,200円）

参考文献：

渡辺雄三『病院における心理療法』（金剛出版）

渡辺雄三『夢分析による心理療法』（金剛出版）

渡辺雄三『夢が語るこころの深み』（岩波書店）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780201	臨床心理面接特論	1	4	高橋蔵人

期間	曜日	時限	備考
通年	金	2	

授業のキーワード：

心理療法、人格変容、事例研究

授業のテーマ：

臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度への理解を深め、心理療法を通しての人格変容の実際に触れることにより、心理臨床実践への動機づけを高めることを目的とする。また、心理療法の各種理論とそれに基づく実践について学び、それぞれの特徴について理解していく。

授業の概要：

心理療法に関する各種理論の基本的概念について学び、担当教員の事例や専門誌掲載の公表事例を検討することにより、理論が実践にどのように生かされるかについて理解を深める。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

前期 ① オリエンテーション、臨床心理面接を行う基本的態度・倫理について

②～④ 来談者中心療法～基本的概念と事例の検討

⑤～⑦ 遊戯療法～基本的概念と事例の検討

⑧～⑩ 箱庭療法～基本的概念と事例の検討

⑪⑫ 親面接～基本的考え方と事例の検討

⑬⑭ 学校での心理面接～基本的考え方と事例の検討

⑮ 前期のまとめ

後期 ① オリエンテーション

②～⑥ 教員による講義と討議

インタビュー・予診と初回面接，見立て，病態水準，臨床心理士の役割，仕事，事例の提示

⑦～⑭ 受講生による発表と討議

精神分析的心理療法，ユング派心理療法，家族療法，認知行動療法，日本の心理療法（森田療法，内観療法）などの基本概念と事例の検討

⑮ 全体のまとめ

授業方法：

講義および演習方式で行う。各項について報告者がレジюмеを作成、発表し、全員で討議する。

達成目標：

各種心理療法についての特徴を学び、それらに通底する臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度について理解する。

評価方法：

授業への取り組み（50%）およびレポート（50%）によって総合的に評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

なし

参考文献：

土居健朗 1977/1992 方法としての面接. 医学書院.

笠原嘉 2007 精神科における予診・初診・初期治療. 星和書店. (1980 予診・初診・初期治療. 診療新社.)

中井久夫・山口直彦 2001 看護のための精神医学. 医学書院.

成田善弘 2007 新訂増補精神療法の第一歩. 金剛出版. (1981 診療新社.)

野村総一郎・樋口輝彦・尾崎紀夫・朝田隆 (編) 『標準精神医学 第5版』. 医学書院.

渡辺雄三他編 2016 クライエントと臨床心理士. 金剛出版.

その他，必要に応じ、授業の中で適宜、紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780301	臨床心理査定特論	1・2	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード：

心理査定、見立て、人格理解、病態水準

授業のテーマ：

臨床心理査定についての基礎から臨床実践的な使用方法に至るまでの習得を目標とします。査定は心理療法と切り離すことのできない技法であり、その理解と実践力は臨床的な力ともなります。基礎的な施行法や分析法と共に、病態水準の診断、人格や知性の判断、感情や対人関係の在り方などの解釈をめぐって検討を行っていきます。

授業の概要：

査定や見立ての基礎的な理論を習得することから始めて、質問紙法や投映法の理論的な背景を考え、臨床実践的な技法を理解することに繋げていくことになります。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～3. 査定と見立て
4. 心理検査の理論と概要
- 5～7. 人格検査施行と分析（1）
8. 人格検査解釈
- 9～11. 人格検査施行と分析（2）
12. 事例検討（1）
13. 事例検討（2）
14. テストバッテリーについて
15. まとめ

授業方法：

まずいくつかの基礎的な論文を購読する。そして徐々に実践的な心理アセスメントを体験しながら、各技法の特徴や解釈法を身につけるための学習を行います。それと併行して臨床実践の中でどのように使用されるのかを概説し、議論していきます。

達成目標：

臨床心理査定法を学び、概論から臨床実践までの理解をすることが目標となります。

評価方法：

平常点（出席状況および受講態度）50%とレポート（50%）によって総合的に評価します。積極的に発言することが求められ、特に遅刻・欠席は厳しい評価になります。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

特にありません。

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780401	心理療法特論	1・2	2	小泉規実男

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード：

「精神分析療法的心理療法の実際」「治療者の自由連想（もの思う）能力」「生きた交流・死んだ交流」

授業のテーマ：

精神分析は、情緒的欲求を満たさない治療構造の下、過去の過酷な全体状況が転移・逆転移という舞台に再燃されるよう設えられた特殊療法である。統制された治療的退行の中で外傷的対象関係を直に扱える深さは、危うさと両刃の剣である。ここでは技法論や概念には深入りせず、精神分析的療法で再燃される過去の全体状況を理解することを通じて、治療者のもの思う能力、生きた交流の芽を育みたい。

授業の概要：

毎回、講師による精神分析的臨床実践例を提示する。受講生は、来談者の乳幼児的世界や内的体験を理解するために、自身の内的体験と重ね合わせ、浮かび上がる連想に耳を傾けることになるであろう。それを言語化する作業には心の痛手を伴うが、できる限りありのままに自己観察し、言語化して頂く。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

講師は一臨床家に過ぎない。臨床実践を通して体験してきたことを自分なりの実感と言葉で伝えることしかできない。勿論、講師の臨床のバックボーンには精神分析があり、可能な限り精神分析的たらんと日々の臨床を続けている。しかし、精神分析的療法は特殊療法であり、院生などの初学者が精神分析的療法を実践することは実際的ではなく、「乱暴な分析」（フロイト）に陥る危険性が高い。

従って、この授業では精神分析的な技法論や概念装置は、「プロセスノートの取り方」「初回面接」「初回夢」「最早期記憶」「中核葛藤テーマ」「転移と逆転移」「投影同一化」「治療構造論」など、分析的経過を理解するために必要な最小限度の理論に限って説明するに留めるつもりである。またW.R. ビオンの、精神分析的態度としての「欲望なく・理解なく・記憶なく」なども紹介する。

その上で、あるいはそれと並行して、講師が実践してきたアルコール依存症とその家族に対する精神分析的アプローチや開業心理臨床の実際、更に神経症や自己愛構造体などの人格障害圏の6名の来談者（患者）との精神分析的な心理療法の実際について詳細な経過を提示する。

受講生はその報告を聞きながら自分の中で浮かんでくる連想に心の耳を澄ませ、自身の内的体験を重ねることで共感しようとする内的な営みを、自己観察し、言語化していただく。

それを授業のたびに、授業当日の内にメールにてレポート提出していただく。

授業方法：

授業は円卓にて行う。講師が事例提示する際にはレジュメを用意するが、未発表の事例に関しては、レジュメをその都度回収する。

達成目標：

精神分析療法的心理療法例に触れることを通じて、「治療者の自由連想（もの思う）能力」や「生きた交流・死んだ交流」について体験的に学びたい。

評価方法：

8割以上の出席率を最低条件とし、「授業での発言・討論の頻度と内容」50%・「毎回授業後に提出して貰うレポートの内容」50%によって評価する。期末のレポート提出や試験は行わない。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

教科書は特にないが、最小限、以下の参考文献程度の基礎的な知識は持って臨まれないと、勿体ない。

参考文献：

小此木啓吾著『対象喪失』1979, 中公新書、680円＋税

松木邦裕著『対象関係論を学ぶ』1996, 岩崎学術出版社、3240円＋税

ベルトラン・クラメール著『ママと赤ちゃんの心理療法』1994, 朝日新聞社、2000円＋税

渡辺久子著『母子臨床と世代間伝達』2000, 金剛出版、3600円＋税

実験・実習・教材費：

特になし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781701	投映法特論	2	2	森田美弥子

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中		集中講義日：8月28日・29日・30日

授業のキーワード： ロールシャッハ法、投映法による人間理解、臨床心理アセスメント

授業のテーマ：

ロールシャッハ法を用いて、投映法による人間理解について学ぶ。
投映法は、臨床心理査定「技法」であると同時に、半構造化面接のような特徴ももっている。検査実施場面でのすべての行動は分析・解釈に役立つものである。被検査者がそこで何を体験しているか考えながら、アセスメントの作業を進めていく必要がある。

授業の概要：

ロールシャッハ法の実施から分析・解釈そしてフィードバックまで、理論的背景を概観した上で、実例の検討を行う。名古屋大学式ロールシャッハ法を中心に扱うが、ロールシャッハ法の実施からスコアリングまでの基礎は、どの技法でもよいので身につけていることを前提とする。
*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

- 第1日目：量的分析
- ・各スコアの解釈仮説。スコアリングの留意点。
 - ・数量指標の意味。カテゴリーごとの特徴把握。
 - ・名大式ロールシャッハ法の特徴。
 - ・「感情カテゴリー」と「思考・言語カテゴリー」。
- 第2日目：質的分析
- ・継列分析のポイント。
 - ・カード特性。
 - ・事例検討①ースコアリングを中心にー。
 - ・実施方法および記録の仕方。
- 第3日目：実践的活用
- ・総合的解釈。水準の見立て。パーソナリティの記述。
 - ・事例検討②ー人物像理解を中心にー。
 - ・フィードバックの仕方。
 - ・まとめ。

授業方法：

主として前半は配布資料にもとづく講義を中心に進めるが、受講生自身が考え全体で討議する時間をとる。後半に事例検討として、受講生が担当したロールシャッハ法の実例を発表し、全員で検討する。（あらかじめ発表者を決めて準備をしておいてください）

達成目標：

ロールシャッハ法について、単なる知識や技術の習得ではなく、生き生きとした人物像を描けるようになること、実践に役立つ投映法アセスメントができるようになることを目指す。

評価方法：

授業への関与度（出席および発言など）…60%、レポート…40%
*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

使用しない。

参考文献：

名古屋ロールシャッハ研究会：編『ロールシャッハ法解説ー名古屋大学式技法ー』2,400円
森田ほか『実践ロールシャッハ法ー思考・言語カテゴリーの臨床的適用』ナカニシヤ出版 2,520円
松本・森田・小川：編『児童・青年期臨床に生きるロールシャッハ法』金子書房 3,500円

実験・実習・教材費：なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780501	グループ・アプローチ特論	1・2	2	伊藤義美

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	5	

授業のキーワード：

グループ・アプローチ、パーソンセンタード・エンカウンター・グループ（PCEG）、グループ・プロセス、グループ・アウトカム（効果）、グループ・ファシリテーション

授業のテーマ：

小グループやグループ状況を活用する心理臨床のグループ・アプローチは、心理治療、心理的成長、教育・研修、訓練に用いられる。グループ・アプローチの種類と特徴、グループのプロセスとアウトカム（効果）、グループ・ファシリテーション、研究方法と研究成果などを学ぶ。

授業の概要：

パーソンセンタード・エンカウンターグループ（PCEG）などのエンカウンター・グループと集団心理療法についてその特徴や意義、方法、グループ・プロセス、グループ効果、ファシリテーション、様々なグループ実践の展開と諸問題を明らかにする。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

1. グループ・アプローチの定義と種類を概説する。
2. グループ・アプローチの歴史と現状を概説する。
3. グループ・アプローチの立場と理論(1)を解説する。
4. グループ・アプローチの立場と理論(2)を解説する。
5. グループ・アプローチの実際(1)について紹介・解説する。
6. グループ・アプローチの実際(2)について紹介・解説する。
7. グループ・アプローチの実践事例(1)の理解を深める。
8. グループ・アプローチの実践事例(2)の理解を深める。
9. グループ・アプローチの体験学習(1)を行う。
10. グループ・アプローチの体験学習(2)を行う。
11. グループ・アプローチの研究(1)について紹介・解説する
12. グループ・アプローチの研究(2)について紹介・解説する。
13. グループ・アプローチの教育・訓練について紹介・解説する。
14. グループ・アプローチの課題と・倫理について解説する。
15. グループ・アプローチの発展と可能性について考える。

授業方法：

基本的には講義形式で進めるが、必要に応じて配布資料の解説、ビデオとDVDの視聴、グループ事例の検討、グループ体験学習、全体討論などを通してグループ・アプローチの理解を深める。

達成目標：

グループ・アプローチに関する基本的な理論と実際及び研究などについての理解を深める。

評価方法：

平常点…40%、ミニレポート…10%、筆記試験…50%

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

伊藤義美編著、『パーソンセンタード・エンカウンターグループ』、ナカニシヤ出版、2,940円

参考文献：

伊藤義美編著、『ヒューマニスティック・グループ・アプローチ』、ナカニシヤ出版、2,310円

伊藤義美他編著、『パーソンセンタード・アプローチの挑戦』、創元社、3,675円

実験・実習・教材費：

特に必要としない。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780801	心理学研究法特論	1	2	吉武久美

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード：

標準偏差、相関係数、ノンパラメトリック検定、カイ2乗検定、行動観察

授業のテーマ：

心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。

授業の概要：

調査研究を行うために必要な基礎的統計技能について説明する。相関係数の算出および有意性検定、集計表の分析および度数検定について解説し、仮想データを用い統計量の算出を行う。授業時間内の学習のみでなく、復習を中心とした自主的な学習が要求される。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 第1回 ガイダンス データ分析の基礎 | 第9回 分散分析の目的 |
| 第2回 母集団と相関関係 | 第10回 1要因の分散分析 |
| 第3回 実験データの処理方法 | 第11回 2要因の分散分析① |
| 第4回 2つの平均値の差の検定① | 第12回 2要因の分散分析② |
| 第5回 2つの平均値の差の検定② | 第13回 2要因の分散分析③ |
| 第6回 2つの平均値の差の検定③ | 第14回 まとめ② 第8回～第13回 |
| 第7回 まとめ① 第1回～第6回 | 第15回 行動観察と全体まとめ |
| 第8回 実験計画法 | |

授業方法：

教科書に沿った解説と計算課題を中心に進めていく。関数電卓は用いるため、毎時間携帯すること。授業内で小テストを実施する。また、授業時間以外にも課題を課すことがある。

達成目標：

修士論文作成に必要な心理統計の基礎知識とデータ解析方法の習得を目標とする。Excel SPSS を使ったデータ処理法の習熟も目指してほしい。

評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、定期試験（100%）の結果によって評価する。
*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

田中・山際 共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円
関数電卓（統計計算のできるもの）

参考文献：

授業内で適宜、紹介する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780901	学習心理学特論	1・2	2	吉武久美

期間	曜日	時限	備考
前期	火	4	

授業のキーワード：

学習、条件づけ、認知的学習、社会的学習

授業のテーマ：

ヒトの行動の多くは、生得的なものではなく、経験を通じて学習されたものといえる。人間行動理解のために不可欠である学習過程を代表的な理論や研究結果を通して理解し、学習という心的過程のメカニズムについて考える。

授業の概要：

動物の学習といった古典的学習から、教授学習に関わる学習過程まで幅広く、「学習」に関する心理学的知見を紹介する。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

第1回	イントロダクション 学習心理学とは	第9回	記憶の過程
第2回	ヒトと動物の生得的行動	第10回	記憶と忘却
第3回	古典的條件づけ 基本原理	第11回	動機づけ
第4回	古典的條件づけ 消去と般化	第12回	社会的学習 模倣の理論
第5回	オペラント条件づけ 基本原理	第13回	社会的学習 観察学習
第6回	オペラント条件づけ 強化	第14回	技能の学習
第7回	オペラント条件づけ 強化スケジュール	第15回	メタ認知とまとめ
第8回	学習方法		

授業方法：

配布資料とパワーポイントを用いて、授業を進める。授業内容と関連した小レポートの提出を求められることがある。

達成目標：

行動主義的知見だけでなく、認知主義的知見まで、学習に関する心理学的知見を幅広く得ることを目標とする。

評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、期末試験（80%）、授業の取り組み（20%）で評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

なし

参考文献：

実森正子・中島定彦共著・『コンパクト新心理学ライブラリ 2 学習の心理』サイエンス社 1,500円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781001	比較行動学特論	1・2	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中		集中講義日 8月7日・8日・9日、予備日 8月10日

授業のキーワード：

比較行動学、比較心理学、進化、適応

授業のテーマ：

ヒトを含むさまざまな動物の適応行動を比較行動学や比較心理学の視点から概観し、ヒトの心的過程のユニークさと心の進化について考察する。

授業の概要：

最初に、ヒトの心的過程と適応行動のユニークさについて受講生全員で討議する。次いで、動物行動研究の基礎理論を紹介し、脳を中心とした中枢神経系の進化について解説する。2種類の知性、繁殖行動、養育行動、コミュニケーション、言語などのトピックを取り上げて解説した後に、改めてヒトのユニークさについて受講者全員で討議を行い、授業内容をまとめる。学外観察実習も行う予定である。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

- 第1回 ヒトのユニークさとは？①（KJ法を用いたヒトの特性の分類）
- 第2回 ヒトのユニークさとは？②（ヒトとそれ以外の動物種との相対的關係）
- 第3回 動物行動研究の基礎理論①（比較行動学、行動生態学）
- 第4回 動物行動研究の基礎理論②（比較心理学、比較認知科学、進化心理学）
- 第5回 中枢神経系の進化①（脳の発生）
- 第6回 中枢神経系の進化②（脳と行動の進化）
- 第7回 学外観察実習①（実習目的と作業内容の説明）
- 第8回 学外観察実習②（展示資料の観覧と動物行動の観察）
- 第9回 学外観察実習③（展示資料の観覧と動物行動の観察）
- 第10回 学外観察実習④（作業内容のまとめとレポート作成）
- 第11回 2種類の知性（物理的知性と社会的知性）
- 第12回 繁殖行動と養育行動（なわばり行動、求愛行動、刻印づけ、愛着行動、模倣）
- 第13回 コミュニケーションと言語①（他者の心の推測、心の理論、欺き行動）
- 第14回 コミュニケーションと言語②（協力行動と利他的行動、共感）
- 第15回 ヒトのユニークさとは？③（討議とまとめ）

授業方法：

プリントや映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連したディスカッション、小レポートの提出も予定している。

達成目標：

比較行動学の基礎知識を習得することに加え、心理学的な視点（個体発生）のみでなく、行動学的な視点（系統発生）からヒトや動物の心的過程や適応行動を理解できるようになることを目指す。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、ディスカッションでの発言（30%）、レポートの内容（70%）によって評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

なし

参考文献：

- 藤田和生 『比較認知科学への招待 「こころ」の進化学』 ナカニシヤ出版 ¥2,700
- 長谷川寿一・長谷川眞理子 『進化と人間行動』 東京大学出版会 ¥2,700
- 五百部裕・小田亮 『心と行動の進化を探る：人間行動進化学入門』 朝倉書店 ¥3,132
- 鈴木光太郎 『ヒトの心はどう進化したのか 狩猟採集生活が生んだもの』 ちくま新書 ¥842

実験・実習・教材費：

約2,000円（水族館または動物園の入場料）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781101	産業・組織心理学特論	1・2	2	高木浩人

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中		集中講義日：9月4日・5日・6日

授業のキーワード：

仕事への動機づけ、職場の人間関係、リーダーシップ、ストレスとサポート、キャリア

授業のテーマ：

産業・組織心理学の重要テーマである、動機づけ、人事、リーダーシップ、キャリアなどについて理解を深める

授業の概要：

産業・組織心理学の重要概念について知るとともに、自らの生活に引き寄せて理解することで、この学問領域のもつ意味について考える。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

1. 産業・組織心理学の概要
2. 仕事への動機づけ
3. 人事評価制度
4. 人事測定の方法
5. 職場の人間関係と意思決定
6. 職場集団におけるリーダーシップ
7. 職場のストレスとサポート
8. 組織における協力と葛藤
9. キャリア発達を促進する支援
10. 売り手と買い手の心理学

授業方法：

各章について発表者がレジュメを作成、配布して発表する。他の受講者は発表内容について議論する。必要に応じて担当者が解説する。それに加えて、測定尺度への回答、回答結果についての考察、シミュレーションゲーム等を実施し、理解を深める。

達成目標：

産業・組織心理学の領域で、これまでどのようなことが研究されてきており、現代社会においてどのような意味をもっているのかについて理解すること。

評価方法：

授業時の発表 50%、参加態度 30%、授業時に提出するコメント 20%

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

田中堅一郎編 『産業・組織心理学エッセンシャルズ【改訂三版】』 ナカニシヤ出版 ¥3,024
事前に教科書を購入し、受講者の間で担当箇所を決め、レジュメ（1章あたりA3で3～4枚程度）を作成、授業時に配布、発表してください。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781201	人間関係特論	1・2	2	五十嵐祐

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中		集中講義日 8月31日・9月1日・2日

授業のキーワード：

幸福感 文化

授業のテーマ：

価値観の多様化が進む現代社会において、個人の幸福はどのような要因によって決定されるのだろうか。この授業では、心理学の分野における幸福感に関する近年の研究を概観し、その構成概念や規定因について、多面的に理解することを目指す。

授業の概要：

テキストを精読し、心理学の分野における幸福感の概念について多面的に理解する。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

毎回の授業では、テキストの各章を精読する。

1. 幸せと理想の人生
2. 幸せとは何か？——西洋哲学の考え方
3. 幸せとは何か？——東洋哲学の考え方
4. 文化と幸せ——文化心理学からの視点
5. 幸せをどう測るのか？
6. 幸せの自己評価過程
7. 経済と幸福感
8. 運と幸福感
9. 結婚と幸福感
10. 友人関係と幸福感
11. 性格と幸福感
12. 幸せになるための介入
13. 幸せの効用？
14. 最適な幸福度とは？
15. 幸せな社会とは？

授業方法：

課題テキストを精読する。受講生は、レポーターとコメンテーターの役割を1回以上担当する（担当については、事前に割り振りを行う）。レポーターは、担当章の要点をレジュメにまとめ、コメンテーターは、議論のきっかけとなるコメントを複数考えてくる。なお、受講人数に応じて、1名が複数回の担当となることや、逆に複数名で各回を担当することがある。レポーター・コメンテーター以外の受講生も、議論への積極的な参加が求められる。

達成目標：

心理学的な視点から、幸福感の概念についての総合的な理解を目指す。また、現実の社会場面におけるさまざまな現象の解釈において、経験則から理解するのではなく、本授業で学んだ内容を発展的に応用して理解できることを目指す。

評価方法：

レポーター・コメンテーターとしての役割（40%）、議論への参加度（30%）、最終レポート（30%）によって総合的に評価する。

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

大石繁宏（2009）. 幸せを科学する——心理学からわかったこと 新曜社 ¥2,592 ISBN: 978-4-7885-1154-5

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781401	心身医学特論	1・2	2	総田純次

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中		集中講義日：8月24日・25日・26日

授業のキーワード：

ケースマネジメント、非構造的面接、ストレス概念

授業のテーマ：

心身医学は、一般医学と精神科ないし臨床心理学、身体と心に跨る学際的な医学領域であり、一般医による生物学的治療と精神科医や臨床心理士による心理学的アプローチが同時に並行することが多い。そのために、1) ケースマネジメントのための他専門職との連携、2) 構造化の弱い状況での心理療法的関わりが要求されることになる。こうした経験は翻って、スクールカウンセリング、学生相談、企業のメンタルヘルスなど、現在臨床心理士のニーズが高まりつつある多彩な領域での心理療法的関わりを学習するうえでよいモデルとなろう。

授業の概要：

心身医学の概念・歴史について講義の形で概説した後、事例を通じて心身医学領域での心理療法的関わりを学習する。素材として、1) バリントによる一般開業医向けの心理療法セミナー、2) ウィニコットの心身症論文、3) 投影同一化や分裂の機序の支配的な幾つかの精神分析の症例を予定。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

第1日目午前：授業の狙いを解説した後、授業担当者による消化性潰瘍の研究の展望論文を材料にして、1) 心身症の諸概念の学習（心身症の概念、ストレス、タイプA、ライフイベントなどの基礎的概念）、2) 心身医学領域での研究の変遷の展望を通じての心身医学的研究法の概観。

第1日目午後：心身症に対する心理療法の考え方として、1) M. バリント『プライマリ・ケアにおける心身医学』および2) ウィニコットの心身症論文を読む。

第2日目：バリントの事例を用いて、構造化の弱い状況での心理療法的関わり（ケースマネジメント、連携、心理療法）を議論する。

第3日目：ローゼンフェルト『治療の行き詰まりと解釈』その他の精神分析症例から、心身症症例によく見られる分裂や投影同一化の過程を学習する。

授業方法：

講義は心身医学の概説に関する部分のみで、あとは事例を通じて参加者で討議する。討議のプロトコールを作成する。また効率化のために事前に配布する資料を読むこと。

達成目標：

①心身医学の最低限の諸概念（心身症、ストレス、タイプAなどの概念）を学習すること、②心身医学の研究の歴史的展望を通じて、心理学的研究法を概観すること、③心身医学領域で問題となる心理的機制および心理療法的関わりを学習し、事例のマネジメントを習得すること。

評価方法：

出席や討論、発表の日常点=70点、レポート=30点

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

とくになし。資料は配布する（場合によっては事前配布）。

参考文献：（必要なものは配布する）

M. バリント、池見西次郎『プライマリ・ケアにおける心身医学』（診断と治療社）（入手困難）
下坂幸三『アノレキシア・ネルボーザ論考』金剛出版、同『摂食障害治療のコツ』金剛出版

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781501	障害者心理学特論	1・2	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード：

知的障害 身体障害 発達障害 特別支援教育

授業のテーマ：

近年、法律の改正により対応が急務とされている障害児者について、社会的な状況をふまえた上で、それぞれの障害の特徴を理解することを目的とします。事例を通して検討を行い、適応上の問題と障害児者の家族への支援のあり方についても学びます。

授業の概要：

様々な障害の特徴と心理的援助について具体的に学びます。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 障害児者の歴史
3. 障害児者に関わる法律
4. 特別支援教育とは
5. 知的障害
6. 身体障害
7. 自閉症スペクトラム
8. 学習障害
9. AD/HD
- 10～14 事例検討
15. まとめ

授業方法：

講義および演習形式で行います。各自が担当する部分について調べたことをもとに、レジュメを作成し、順番に発表し検討していきます。視聴覚教材を用いる場合もあります。

達成目標：

それぞれの障害の特徴と心理的特性、発達上の諸問題を理解することを目的とします。

評価方法：

課題への取り組みおよび発表内容（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

なし

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781601	心理統計法特論	1・2	2	谷伊織

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中		集中講義日：8月21日・22日・23日

授業のキーワード：

データ解析、論文読解、質問紙法、多変量解析

授業のテーマ：

心理学の研究を計画・遂行する上で、一連の統計的な手続きを理解することはきわめて重要である。この授業では、心理学で必要とされる一連の統計技法を理解することを目的とする。

授業の概要：

実際に雑誌に掲載されている論文のなかで使用されている統計手法を解説する。また、コンピュータを用いてフリーの統計ソフトウェアであるRおよびHADによる統計処理の作業を体験する。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. イントロダクション | 9. 分析手法を組み合わせる結果を導く 1 |
| 2. 統計処理で陥りがちな問題点 1 | 10. 分析手法を組み合わせる結果を導く 2 |
| 3. 統計処理で陥りがちな問題点 2 | 11. 分析手法を組み合わせる結果を導く 3 |
| 4. 統計処理で陥りがちな問題点 3 | 12. 分析手法を組み合わせる結果を導く 4 |
| 5. 統計処理で陥りがちな問題点 4 | 13. 分析手法を組み合わせる結果を導く 5 |
| 6. 個別の分析手法 1 | 14. 最終課題 1 |
| 7. 個別の分析手法 2 | 15. 最終課題 2 |
| 8. 個別の分析手法 3 | |

授業方法：

講義、実習、レポート作成、プレゼンテーションを組み合わせる授業を行う。

なお、受講者の理解度に合わせて授業内容を変更することがある。

達成目標：

研究で陥りがちな問題点に触れ、分析に対するクリティカルな思考ができる技術を身につける。

評価方法：

授業への参加態度 50%、レポート 50%で評価する。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

村井潤一郎 「はじめてのR：ごく初歩の操作から統計解析の導入まで」 北大路書房

参考文献：

山田剛史・杉澤武敏・村井潤一郎(2008) 「Rによるやさしい統計学」 オーム社

山田剛史(2015) 「Rによる心理学研究法入門」 北大路書房

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790301	日本近世教育文化論演習	1～2	2×2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	火	3	

授業のキーワード：

古文書、日本漢文、くずし字

授業のテーマ：

歴史学研究の基本である日本漢文、古文書解読の基礎的知識を修得し、初歩的な古文書などを読めるようにする。

授業の概要：

基礎的な史料、古文書を輪番で解読し、日本漢文、古文書解読の基礎的な知識を修得する。また、内容について解説し、グループ討議などを行う。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

- | | | | |
|----|--------|----|--------------|
| 1 | 吉田松陰 | 16 | 『日本外史』① |
| 2 | 西郷隆盛 | 17 | 『日本外史』② |
| 3 | 坂本龍馬 | 18 | 『日本外史』③ |
| 4 | 橋本左内 | 19 | 『日本外史』④ |
| 5 | 石田梅岩 | 20 | 『日本外史』⑤ |
| 6 | 上杉鷹山 | 21 | 古文書 仮名読みの基礎① |
| 7 | 会沢正志齋 | 22 | 古文書 仮名読みの基礎② |
| 8 | 『旧幕府』① | 23 | 古文書 仮名読みの基礎③ |
| 9 | 『旧幕府』② | 24 | 古文書 候文の基礎① |
| 10 | 『旧幕府』③ | 25 | 古文書 候文の基礎② |
| 11 | 『旧幕府』④ | 26 | 古文書 候文の基礎③ |
| 12 | 『旧幕府』⑤ | 27 | 古文書 基礎史料解読① |
| 13 | 『旧幕府』⑥ | 28 | 古文書 基礎史料解読② |
| 14 | 『旧幕府』⑦ | 29 | 古文書 基礎史料解読③ |
| 15 | 『旧幕府』⑧ | 30 | 古文書 基礎史料解読④ |

授業方法：

最初は講義形式を中心とする。学生の進捗状況に応じて、輪読形式とする。

達成目標：

くずし字辞典を使い、史料が読め、解釈できることを目標とする。

評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

なし

参考文献：

井上久雄著、川口雅昭訳編『大教育者のことば』致知出版社。一、六〇〇円。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800201	比較日本古典文学特論	1・2	4	花井しおり

期間	曜日	時限	備考
通年	火	1	

授業のキーワード：

万葉集・古今和歌集・和歌・和歌の修辞

授業のテーマ：

最初の勅撰和歌集『古今和歌集』以来、季節の風物は和歌の中心的主題とされた。この講義では、その『古今和歌集』に先立つ『万葉集』の丁寧な読解を通して日本文化の基底にある季節観を知ることからはじめ、『古今和歌集』の読解へと進む。後期は和歌を理解するための和歌の修辞・文法的知識にも触れる。

授業の概要：

『万葉集』『古今和歌集』についての基礎的な知識を習得する。

『万葉集』『古今和歌集』の季節把握とその表現の特質を学ぶ。

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

(前期)	(後期)
1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介など	1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介・歴史的事項の確認
2 『万葉集』についての概説 1	2 『古今和歌集』について
3 『万葉集』についての概説 2	3 『万葉集』から『古今和歌集』へ
4 『万葉集』の春の歌 1	4 和歌の修辞
5 『万葉集』の春の歌 2	5 1から4のまとめ
6 1から5までのまとめ	6 『古今和歌集』1 (以下、担当学生の発表)
7 『万葉集』の夏の歌 1	7 『古今和歌集』2
8 『万葉集』の夏の歌 2	8 『古今和歌集』3
9 『万葉集』の秋の歌 1	9 『古今和歌集』4
10 『万葉集』の秋の歌 2	10 『古今和歌集』5
11 6から10までのまとめ	11 『古今和歌集』6
12 『万葉集』の冬の歌 1	12 『古今和歌集』7
13 『万葉集』の冬の歌 2	13 『古今和歌集』8
14 全体のまとめ 1	14 『古今和歌集』9
15 『古今和歌集』へ	15 全体のまとめ

授業方法：

(前期) 講義形式を基本とする。

(後期) 前半は講義形式、後半は担当する歌を決めて発表・演習形式とする。

達成目標：

(前期) 『万葉集』についての基礎的な知識を習得するとともに、万葉歌の表現の特質を理解する

(後期) 『古今和歌集』についての基礎的な知識を習得するとともに、古今和歌集の歌の表現の特質を理解する。

評価方法：

授業への取り組み (50%) + レポート (50%)

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

(前期) 森淳司 (編) 『訳文万葉集』笠間書院 (1,800円+税)、『新総合図説国語』(880円)

(後期) 小町谷照彦 (訳注) 『古今和歌集』ちくま学芸文庫 (1,500円+税)、『新総合図説国語』(880円) ※後期は必ず古語辞典 (電子辞書不可) を持参すること。

参考文献：

鈴木日出男 (編) 『原色小倉百人一首』文英堂 (533円+税)

その他は、授業のなかで適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800301	日本近世教育文化論特論	1・2	4	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード：

近世、教育（人づくり）、社会

授業のテーマ：

18世紀末からのウェスタン・インパクトと国内支配体制の混乱に対して、我国の武士階級が行った対応は、人材育成という抜本的改革であった。そして、そこで養成された人材は、結果的に「明治日本」発展の中心的役割を果たすこととなった。

そこで、本講義では、近世、とりわけ、幕末という時代を理解させるため、幕末期の天皇と幕府の関係を中心として、その社会を考える。そして、とりわけ、幕末期において、特異な人づくりを行ったと思われる、長州藩及び薩摩藩における学校教育（主に藩校教育）などを考える。

授業の概要：

18世紀終わりから、19世紀初めに在位された光格天皇は、ある意味では、我国の幕末という時代を準備された天皇であった。そこで、まず、天皇と幕府との関係を中心として、幕末という時代を理解させる。そして、その中で諸問題に対し、長州、薩摩藩がどのような人づくりを行ったかを理解させる。

* 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1. 幕末期の政治と教育 政治動向①光格天皇の誕生① | 16. 幕末期の教育現状 寺子屋の教育① |
| 2. 幕末期の政治と教育 政治動向①光格天皇の誕生② | 17. 幕末期の教育現状 寺子屋の教育② |
| 3. 幕末期の政治と教育 政治動向②天明の大飢饉と天皇① | 18. 幕末期の教育現状 寺子屋の教育③ |
| 4. 幕末期の政治と教育 政治動向②天明の大飢饉と天皇② | 19. 幕末期の教育現状 寺子屋の教育④ |
| 5. 幕末期の政治と教育 政治動向③光格天皇の君主意識① | 20. 幕末期の教育現状 寺子屋の教育⑤ |
| 6. 幕末期の政治と教育 政治動向③光格天皇の君主意識② | 21. 幕末期の教育現状 私塾の教育①松下村塾① |
| 7. 幕末期の政治と教育 政治動向④対外的危機と朝廷① | 22. 幕末期の教育現状 私塾の教育①松下村塾② |
| 8. 幕末期の政治と教育 政治動向④対外的危機と朝廷② | 23. 幕末期の教育現状 私塾の教育①松下村塾③ |
| 9. 幕末期の政治と教育 政治動向⑤大政委任論の成立① | 24. 幕末期の教育現状 私塾の教育①松下村塾④ |
| 10. 幕末期の政治と教育 政治動向⑤大政委任論の成立② | 25. 幕末期の教育現状 私塾の教育咸宜園① |
| 11. 幕末期の政治と教育 政治動向⑥天皇号の再興① | 26. 幕末期の教育現状 私塾の教育咸宜園② |
| 12. 幕末期の政治と教育 政治動向⑥天皇号の再興② | 27. 幕末期の教育現状 私塾の教育適塾 |
| 13. 幕末期の教育現状 長州藩を中心として | 28. 「学制」の制定と近代学校制度の整備① |
| 14. 幕末期の教育現状 薩摩藩を中心として | 29. 「学制」の制定と近代学校制度の整備② |
| 15. まとめ | 30. まとめ |

授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

達成目標：

幕末という時代を代表する史料を読み取り、また、その時代を理解できる能力を習得する。

評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

* 成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし。史料は適時配布。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
820201	茶道文化論特論	1・2	4	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考
通年	水	5	

授業のキーワード：

日本人としてのアイデンティティを確立する上で伝統文化としての茶道の「道・学・実」を座学として学ぶ。

授業のテーマ：

茶道文化全般の知識を概説する。裏千家の「ことば」、四規七則、利休道歌より茶道のこころを学ぶ。茶の伝来と発展、茶道の成立、千利休から十六代坐忘齋家元まで歴代について、茶室と露地について概説する。

季節を通しての茶道具の取り合わせを学び、お茶の季節感を体得する。茶室における亭主と客の位置について学び、茶室空間を体得する。そして茶事の集大成である茶事を学ぶ。

授業の概要：

茶道 裏千家 ことば 四規七則、利休道歌、茶道具、茶室空間、茶事

*準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

（前期）

1. 茶のこころ（1）
2. 茶のこころ（2）
3. 茶と禅
4. 茶道の逸話
5. 茶の伝来と発展（奈良・平安時代）
6. 茶の伝来と発展（鎌倉・室町時代前期）
7. 茶の伝来と発展（珠光・紹鷗によるわび茶）
8. 茶道の成立（利休のわび茶）
9. 茶道の成立（利休七哲と大名茶）
10. 茶道の成立（千家の成立とその後）
11. 裏千家歴代について
12. 茶室と露地について
13. 茶事・茶会について
14. 茶道具について
15. 神谷柏露軒における茶室見学

（後期）

1. 風炉の道具
2. 炉の道具
3. 一畳台目から三畳の茶室
4. 三畳半から四畳の茶室
5. 四畳半から五畳の茶室
6. 六畳から十六畳の茶室と立礼の茶室
7. 茶人の工夫（1）
8. 茶人の工夫（2）
9. 茶人の工夫（3）
10. 風炉の正午の茶事
11. 朝茶事
12. 名残の茶事
13. 口切の茶事
14. 夜咄しの茶事
15. 神谷柏露軒における茶室見学

授業方法：

講義

達成目標：

茶道のこころ、歴史、知識を通して日本の伝統文化を学ぶ。
風炉と炉の茶道具の知識、取り合わせ。茶室の理解。茶事の理解。

評価方法：

授業への取り組み（50%）、レポート（50%）

*成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

裏千家茶道（900円＋税）茶道文化検定公式テキスト3級（1,400円＋税）

茶席の名席ハンドブック（1,500円＋税）茶道文化検定公式テキスト1・2級（2,000円＋税）

参考文献：

茶道文化検定公式テキスト1・2級（2,000円＋税）茶室の名席ハンドブック（1,500円＋税）

佐々木三味著「お茶事」

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
840301	日本近・現代史特論	1・2	4	田浦雅徳

期間	曜日	時限	備考
前期/後期	月/月	2/3	

授業のキーワード：

立憲政治 明治憲法 日清戦争 日露戦争 太平洋戦争

授業のテーマ：

近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。具体的には幕末のペリー来航から立憲政治の確立、日清・日露戦争から太平洋戦争終戦までの政治過程を講義する。もって近代国民国家としての日本が如何にして形成され、激動の近代国際社会の中で苦闘の歴史を築いたかを知る。

授業の概要：

ペリー来航から、明治憲法の成立を経て日露戦争の終結に至までの政治外交史。
 ＊準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間は担当教員に確認すること。

授業の計画：

〔前期〕	〔後期〕
第1回 日本近代史をどうみるか	第1回 日露戦後の内政と外交
第2回 開国と政局の転換	第2回 大正政変
第3回 討幕運動の展開と幕府の滅亡	第3回 第一次大戦と日本
第4回 明治政府の発足と中央集権体制の強化	第4回 原内閣と政党政治
第5回 明治初期の国際問題	第5回 ワシントン体制と協調外交
第6回 新政府への反乱	第6回 政党政治の展開
第7回 立憲政治への動きと自由民権運動	第7回 恐慌と「北伐」の時代
第8回 国会開設運動と民権運動の激化	第8回 張作霖爆殺事件
第9回 国家体制の整備	第9回 満州事変
第10回 憲法の制定と初期議会	第10回 政党内閣の崩壊
第11回 条約改正と朝鮮問題	第11回 二・二六事件
第12回 日清戦後と三国干渉	第12回 日中戦争
第13回 日清戦後の政治と立憲政治の定着	第13回 第二次世界大戦と三国同盟
第14回 北清事変と日英同盟	第14回 新体制運動
第15回 日露戦争	第15回 太平洋戦争の勃発から敗戦へ
第16回 前期末試験	

授業方法：

教科書を読みながら、パワーポイントのスライドを使って解説を行う。

達成目標：

授業の内容をしっかりと把握する。

評価方法：

前期は試験（100％）によって評価し、後期は平常点で評価する。
 ＊成績発表後、試験・レポートを行った場合は教務課で総評を確認できます。

教科書：

鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』山川出版社、2013年

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし